arcserve

Rev:1.3

よくあるご質問と回答:
Arcserve Unified Data Protection 10.x

1　全般 1

Q1. Arcserve Unified Data Protection (以下 Arcserve UDP と表記) とはどのようなソフトウェアですか？ 1

Q2. どのようなユーザが対象ですか？ 1

Q3. Arcserve UDP にはどのような機能が提供されていますか？ 1

2　ライセンスについて 2

Q1. Premium / Premium Plus Edition のライセンス対象である CPU ソケットは対象サーバで現在利用している CPU ソケット数ですか？それとも最大搭載可能 CPU ソケット数ですか？ 2

Q2. Premium / Premium Plus Edition は物理（非仮想化）サーバに適用できますか？ 2

Q3. Premium Edition に含まれる Arcserve Backup のサポート環境や機能はなんですか？ 2

Q4. Premium Edition に含まれる Arcserve Replication のサポート環境や機能はなんですか？ 2

Q5. Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Replication/High Availability のサポート環境や機能は、なんですか？ 2

Q6. バックアップ対象が仮想マシンの場合はどのライセンスを購入すればいいですか？ 2

Q7. バックアップ対象の容量でライセンスを購入することはできますか?..... 3

Q8. 特定期間内の使用権で Arcserve UDP を利用することは可能ですか。 3

Q9. 異なるハードウェアにベアメタル復旧するために追加オプションの購入は必要ですか?..... 3

Q10. 仮想マシンのエージェントレス バックアップはできますか？ 追加オプションなどを購入する必要はありますか? 3

Q11. クラウド上の仮想サーバの場合には、どのライセンスを購入すればいいですか? 3

3　動作要件およびサポート構成について 4

Q1. どのプラットフォームで動作しますか？ 4

Q2. Arcserve UDP コンソールや復旧ポイントサーバは古い OS でも動作しますか? 4

Q3. Arcserve UDP でオンライン バックアップができるアプリケーションはなんですか? 4

Q4. Arcserve UDP のオンライン バックアップに対応しないアプリケーションのバックアップはどうすれば良いですか？ 4
Q5. Microsoft Hyper-V の管理 OS（ホスト）に Arcserve UDP エージェントをインストールし単独で利用する場合、仮想マシンのオンライン バックアップはできますか? 5
Q6. Microsoft Active Directory のドメインコントローラをサポートしますか？ 5
Q7. クラスタ構成をサポートしますか?..... 5
Q8. Hyper-V レプリカ をサポートしますか?..... 6
Q9. 対象のサーバをバックアップする際に、別サーバをバックアップ サーバとして構築する必要はありますか？ 6
Q10. Arcserve UDP Linux バックアップサーバは Windows 上の管理コンソールで管理できますか？ 6
Q11. Arcserve UDP Agent for Linux のバックアップ先に復旧ポイント サーバを利用できますか？ 6
Q12. Arcserve UDP のどのバージョンからのアップグレードできますか？　設定は引き継がれますか？ 6
Q13. Arcserve UDP のプランを新規の環境に移行できますか？ 7
Q14. バックアップ プロキシとはなんですか？ 7
Q15. エージェントレス方式でバックアップ プロキシをバックアップできますか？ 7
Q16. バックアップできるボリュームサイズに制限はありますか？ 7
Q17. CIFS 共有フォルダ や NFS 共有フォルダのバックアップはできますか？ 7
Q18. Hyper-V 環境のエージェントレス バックアップにはどんな方法がありますか？ 7
Q19. Arcserve UDP で行う通信にセキュアなプロトコルを使えますか？ 8
Q20. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？ 8
Q21. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？？ 8
Q22. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで AHV (Acropolis Hypervisor) 環境を構築している場合、仮想 マシンのバックアップをサポートしますか？ 8
Q23. Nutanix Files のバックアップはサポートしますか？ 8
Q24. Proxmox VE 仮想マシンのバックアップをサポートしますか？ 9
Q25. HPE Morpheus VM Essentials Software 仮想マシンのバックアップをサポートしますか？ 9
Q26. Citrix Xen Server や Oracle VM を仮想スタンバイ対象の仮想環境としてサポートしていますか？ ... 9
Q27. Arcserve UDP に付属する Arcserve Backup ではなにができますか？ 9
Q28. Arcserve UDP のコンポーネントは仮想サーバやクラウド上の仮想マシンに導入できますか？ 9
Q29. 仮想スタンバイとは何ですか？ 9
Q30. アドホック仮想スタンバイとは何ですか？ 10

Q31. インスタント仮想マシン (インスタント VM) とは何ですか？ 10
Q32. 仮想スタンバイとインスタント仮想マシン (インスタント VM) の違いは何ですか？ 10
Q33. 仮想スタンバイやインスタント仮想マシン (インスタント VM) をクラウド上に構築できますか？ ... 11
Q34. セキュア ブート環境のマシンをバックアップできますか？ 11
Q35. Arcserve UDP の設定をエクスポートできますか？ 11
Q36. 複数拠点にバックアップ データを転送できますか？ 11
Q37. 古い OS を利用していますが、アシュアード セキュリティ – マルウェア スキャンを利用できますか？ 11
Q38. Microsoft Defender を無効にしている場合でも、アシュアード セキュリティ- マルウェア スキャンを利用できますか？ 12
Q39. タスク 1 で Microsoft 365 のバックアップが設定できないのですが、非サポートになったのでしょうか？ 12

1　全般

Q1. Arcserve Unified Data Protection (以下 Arcserve UDP と表記) とはどのようなソフトウェアですか？

サーバやクライアント PC のデータを動作させたまま、OS から丸ごと保護できるイメージ バックアップ製品です。
サーバ単体での保護はもちろん、複数サーバの包括的な保護ができます。重複排除バックアップ機能や、仮想環境も物理環境も同時に保護できる集中管理機能を標準機能で提供しています。IT の専門知識がなくても簡単に使いこなせ、手ごろな価格で迅速にバックアップ運用を開始できることが大きな特長です。
また、バックアップ時点の状態で仮想マシンをすぐに起動できる仮想スタンバイ機能やインスタント VM 機能、遠隔地へのバックアップ データ転送機能といった事業継続や災害対策に関する機能も標準機能で提供しています。
さらに、バックアップ データの安全性を確認するアシュアード セキュリティ機能や、リストア可能なバックアップ データかどうかを毎回チェックできる、まさにデータ レジリエンスのソリューションを提供するバックアップ / リカバリのソフトウェアです。

Top へ戻る

Q2. どのようなユーザが対象ですか？

特定ユーザや業種に限定される製品ではありません。小規模から大規模環境まで幅広く対応できます。 IT の専門知識を持たないユーザや、投資を最小限に抑えつつ簡単かつ必要充分なシステム保護を実現したいユーザ、または大量の仮想サーバや膨大な量のデータのバックアップ管理が必要なユーザや、物理・仮想・クラウドが混在する環境を単一の製品で保護したいユーザにも最適な製品です。

Top へ戻る

Q3. Arcserve UDP にはどのような機能が提供されていますか？

Arcserve UDP は個別マシンのバックアップにとどまらず、コンソール画面から保護対象マシンの一元管理機能を提供します。Arcserve UDP には、Advanced / Premium / Premium Plus の 3 つのサーバ OS 用のエディションがあり、バックアップ運用には欠かせない、バックアップ データの重複排除、柔軟なバックアップ スケジュール、バックアップ データの遠隔転送、仮想スタンバイ、インスタント VM、テープへのバックアップ、アシュアードリカバリなどを Advanced Edition の機能として提供しています。
Premium Edition では上記に加え、アシュアード セキュリティ - マルウェア スキャン (Arcserve UDP 10.0 から提供)、アシュード セキュリティ - AI 異常検出 (Arcserve UDP 10.3 から提供) 、役割ベースの管理、Oracle RMAN 連携、ハードウェアスナップショット、Arcserve Backup の全機能、Arcserve Replication のファイル サーバ シナリオをご利用いただけます。
Premium Plus Edition では、更に Arcserve Replication & High Availability の全機能をご利用いただけます。
詳しくは製品概要および製品カタログ、製品紹介 Web サイトをご覧ください。

Top へ戻る

2　ライセンスについて

Q1. Premium / Premium Plus Edition のライセンス対象である CPU ソケットは対象サーバで現在利用している CPU ソケット数ですか？それとも最大搭載可能 CPU ソケット数ですか？

現在利用されている CPU ソケット数がライセンス対象になります。

Top へ戻る

Q2. Premium / Premium Plus Edition は物理（非仮想化）サーバに適用できますか？

はい。物理サーバのシステム・データ保護にもご利用いただけます。

Top へ戻る

Q3. Premium Edition に含まれる Arcserve Backup のサポート環境や機能はなんですか？

日本で販売している Arcserve Backup 19.0 と同じ環境、同じオプション / エージェント製品、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Backup の動作要件や注意/制限事項をご覧ください。

Top へ戻る

Q4. Premium Edition に含まれる Arcserve Replication のサポート環境や機能はなんですか？

Premium Edition に含まれる Arcserve Replication の機能では、Windows OS の Standard Edition 環境でファイルサーバのレプリケーションを利用できます。ファイルサーバでも WSFC を構成している場合は、Premium Plus Edition をお求めください。そのほか、データベースやアプリケーションの複製、Windows OS の Datacenter Edition や Enterprise Edition をご利用になる場合、またファイルサーバを含む Arcserve High Availability のスイッチオーバー機能をご利用になる場合は、Premium Plus Edition をお求めください。

Top へ戻る

Q5. Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Replication/High Availability のサポート環境や機能は、なんですか？

日本で販売している Arcserve Replication / High Availability 18.0 と同じ環境、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Replication / High Availability の動作要件や注意/制限事項をご覧ください。

Top へ戻る

Q6. バックアップ対象が仮想マシンの場合はどのライセンスを購入すればいいですか？

仮想環境をバックアップされる場合は、ゲスト OS の数に関係なく、仮想ホストが利用している CPU ソケット数分のソケット ライセンスをお求めください。Microsoft Hyper-V 環境の場合には、管理 OS（ホスト OS）も同じライセンスでバックアップできます。

Top へ戻る

Q7. バックアップ対象の容量でライセンスを購入することはできますか?

はい。バックアップ対象の合計容量でライセンスをご購入いただける容量単位のライセンスを提供しています。物理・仮想環境に関わらず、ご利用いただけます。

Top へ戻る

Q8. 特定期間内の使用権で Arcserve UDP を利用することは可能ですか。

はい。1 年/3 年/5 年のサブスクリプションライセンスを用意しています。なお、3 年間のサブスクリプションライセンスは、Arcserve UDP 10 のライセンスから適用されます。

Top へ戻る

Q9. 異なるハードウェアにベアメタル復旧するために追加オプションの購入は必要ですか?

いいえ、必要ありません。標準機能としてご利用いただけます。

Top へ戻る

Q10. 仮想マシンのエージェントレス バックアップはできますか？ 追加オプションなどを購入する必要はありますか?

追加オプション等を購入することなく、すべてのエディションで VMware vSphere 、Microsoft Hyper-V および Nutanix AHV の仮想マシンをエージェントレスでバックアップできます。Arcserve UDP のエージェントレス バックアップでは、ファイル単位のリストアや、アプリケーション (Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint) のオンライン バックアップもサポートします。

Top へ戻る

Q11. クラウド上の仮想サーバの場合には、どのライセンスを購入すればいいですか?

1 台のクラウド仮想サーバあたり 1 ライセンスをご購入ください。Advanced Edition をご利用の場合は、 1 クラウド仮想サーバにつき 1 サーバ単位ライセンス（※）。Premium Edition 以上の場合は、 1 クラウド仮想サーバにつき、1 ソケット単位ライセンス(仮想 CPU 数や仮想コア数に関係なく)が必要になります。

※なお旧バージョンからソケット単位ライセンスへ無償アップグレードを行った場合、従来通りクラウド上で Advanced Edition のソケット単位ライセンスをご利用いただけます。

Top へ戻る

ライセンスについては、『ライセンスに関するよくある質問と回答』も合わせてご参照ください。

3　動作要件およびサポート構成について

Q1. どのプラットフォームで動作しますか？

Arcserve UDP は、物理 / 仮想 / クラウド環境の Windows OS および Linux OS で動作します。主な対応環境は、Windows Server 2025 /2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2、および Windows 11 / 10 / 8.1 / 8 などの Windows 系 OS と、Red Hat Enterprise Linux、AlmaLinux、 Rocky Linux、CentOS、SUSE Linux Enterprise Server、Debian、Oracle Linux、Ubuntu などの Linux 系 OS になります。
詳細は動作要件をご参照ください。

Top へ戻る

Q2. Arcserve UDP コンソールや復旧ポイントサーバは古い OS でも動作しますか?

Arcserve UDP 10 のコンソールは、Windows Server 2012 以降の Windows Server 環境で動作しますが、管理用のデータベースとして SQL Server 2022 Express Edition を導入します。このため、新規インストールが可能なのは、Windows Server 2016 以降の OS になります。
Windows Server 2012 / 2012 R2 に Arcserve UDP 10 コンソールを導入するには、Arcserve UDP 8.x からのアップグレードが必要になります。なお、Windows Server 2012 / 2012 R2 にコンソールを導入される場合には、コンソールの管理データベースとして、SQL Server 2017 Express Edition の利用をお薦めします。
復旧ポイントサーバは Arcserve UDP コンソール同様、Windows Server 2012 以降の OS をサポートします。こちらはインストールの制限事項はありません。

Top へ戻る

Q3. Arcserve UDP でオンライン バックアップができるアプリケーションはなんですか?

Arcserve UDP Advanced Edition にて、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint、Active Directory など VSS に対応したアプリケーションのオンライン バックアップができます。仮想環境の場合でも、エージェントレス バックアップの手法で同じアプリケーションをオンラインでバックアップできます。
Premium Edition 以上のライセンスでは、Oracle RMAN と連携したバックアップをサポートします。
Microsoft 365 サブスクリプションでは、Microsoft Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive、Teams のバックアップができます。
各アプリケーションの対応バージョンや必要な対応モジュールは Arcserve UDP の動作要件をご参照ください。

Top へ戻る

Q4. Arcserve UDP のオンライン バックアップに対応しないアプリケーションのバックアップはどうすれば良いですか？

Arcserve UDP はバックアップ時 (バックアップ前 / スナップショット取得後 / バックアップ後) に任意のスクリプトを指定できます。この機能により、スナップショット取得までの短い時間だけアプリケーションを停止させ、オフライン状態でバックアップを行えます。Arcserve UDP はアプリケーションに依存しない、ファイルとしての保護を行います。

VMware vSphere / Microsoft Hyper-V / Nutanix AHV 環境でエージェントレス バックアップを行う場合でも、Windows 仮想マシンであれば、バックアップ時にスクリプトを実行できます。バックアップ時に停止が必要となるアプリケーションは、バックアップ前とスナップショット取得後にスクリプトにて停止 / 開始を設定します。

Top へ戻る

Q5. Microsoft Hyper-V の管理 OS（ホスト）に Arcserve UDP エージェントをインストールし単独で利用する場合、仮想マシンのオンライン バックアップはできますか?

はい。Microsoft Hyper-V の仮想マシンのオンライン バックアップおよび管理 OS を含めたシステム全体の復旧ができます。この方法では仮想マシン全体の復元となり、ファイル単位やアプリケーション単位のリストアには対応していません。また仮想マシン内のファイルやアプリケーション単位のリストアが必要な場合には、Arcserve UDP 管理コンソールおよびバックアップ プロキシを構築し、エージェントレス バックアップを行ってください。

Top へ戻る

Q6. Microsoft Active Directory のドメインコントローラをサポートしますか？

はい、サポートします。

以下の表にて使用可能な Active Directory の復旧方法をご確認ください。

復旧方法 / バックアップ方式	バックアップ対象	権限のない復元 (非 Authoritative リストア)	権限のある復元 (Authoritative リストア)	オブジェクト単位復旧
エージェント ベース	物理マシン	○ ※1	○ ※4	○
	仮想マシン	○ ※1,※3	×	○
エージェントレス	仮想マシン	○ ※2,※3	×	○ ※5

※1 ベアメタル復旧で復元します。

※2 Windows Server 2012 以降の OS では、「仮想マシンの復旧」をご利用いただけます。

※3 仮想環境で Active Directory の全体復元を行う場合、日本マイクロソフト株式会社の「仮想化セーフガード」の仕様に基づき、「権限のない復元」のみサポートされています。(復元にあたり、複製元となる別のドメインコントローラが必要となります)

※4 Active Directory が物理環境に構築されている場合は、ベアメタル復旧後に OS の ntdsutil コマンドを使用して「権限のある復元」を実行できます。

※5 Active Directory Object Level Restore ユーティリティを使用したリストアになります。

Top へ戻る

Q7. クラスタ構成をサポートしますか?

WSFC (Windows Server Failover Clustering) のファイルサーバ、Hyper-V ホストと、Microsoft SQL AlwaysOn Availability Group (AAG) および、CSV 上の AlwaysOn Failover Cluster Instance (FCI)の 2 種類のクラスタ環境をサポートします。また Hyper-V ライブ マイグレーション環境に構築される CSV 上の仮想マシンもサポートします。CSV 上の仮想マシンはエージェントレス、もしくは各仮想マシンにエージェントをインストールしてバックアップを行ってください。その他のクラスタ構成をバックアップするには、Arcserve Backup をご利用ください。

Top へ戻る

Q8. Hyper-V レプリカ をサポートしますか?

はい、スタンドアロン構成のゲストとホストのバックアップをサポートします。ゲストはプライマリ仮想マシン（複製元）からバックアップを実行してください。（技術情報 206058443 も合わせて参照してください）

Top へ戻る

Q9. 対象のサーバをバックアップする際に、別サーバをバックアップ サーバとして構築する必要はありますか？

いいえ、Windows 環境も Linux 環境も、対象のサーバに Arcserve UDP エージェントを導入することで、自分自身をバックアップできます。より高度な機能（例：重複排除、遠隔地レプリケーションなど）を利用される場合には、Arcserve UDP 管理コンソールと復旧ポイント サーバを導入してください。

Linux 環境の場合、Arcserve UDP Agent for Linux を導入したサーバが最低 1 台必要となります。他のバックアップ対象の Linux サーバには Arcserve UDP エージェントを個別に導入する必要はありません。

Top へ戻る

Q10. Arcserve UDP Linux バックアップサーバは Windows 上の管理コンソールで管理できますか？

はい、管理できます。

Arcserve UDP 管理コンソールから、Windows や仮想環境、クラウド環境と一緒に Linux も管理でき、混在環境を統合管理できます。

Top へ戻る

Q11. Arcserve UDP Agent for Linux のバックアップ先に復旧ポイント サーバを利用できますか？

はい、Windows 環境に構築する Arcserve UDP コンソールに、Arcserve UDP エージェントを導入した Linux サーバ（Linux Backup Server) を登録することで、復旧ポイントサーバを利用できます。

復旧ポイント サーバを利用することで、Linux 環境だけでは実現できないバックアップの継続増分運用や重複排除、復旧ポイントのレプリケートやテープへのコピーだけでなく、インスタント仮想マシンやアシュアードリカバリなど、より高機能のバックアップを運用できます。

Top へ戻る

Q12. Arcserve UDP のどのバージョンからのアップグレードできますか？　設定は引き継がれますか？

Arcserve UDP 10 は、Arcserve UDP　8.x と 9.x からのアップグレードがサポートされています。なお、Windows Server 2012 / 2012 R2　で Arcserve UDP コンソールを運用される場合は、Arcserve UDP 8.x からのアップグレードのみ、サポートになります。

アップグレードは、Windows Agent の設定や、Arcserve UDP コンソールのノード、プラン等の基本設定も含め引き継ぎますが、増分バックアップ運用を行っている環境では、アップグレード後、最初のバックアップは自動的に検証バックアップに切り替わります。(重複排除の場合には、フルバックアップに切り替わります) その後は元の設定と同じく、継続増分の運用になります。

アップグレード対象バージョンに該当しない場合は、まず上記のバージョン のいずれかにアップグレードします。その後、Arcserve UDP 10 への 2 段階アップグレードを実施してください。

Top へ戻る

Q13. Arcserve UDP のプランを新規の環境に移行できますか？

はい、コマンド (ConsoleMigration.exe) により、Arcserve UDP コンソール環境そのものを新規の環境に移行できます。

詳細はコチラをご覧ください。

Top へ戻る

Q14. バックアップ プロキシとはなんですか？

仮想ホストから仮想マシンの情報を受け取り、バックアップおよびリストア データの受け渡し処理を行うサーバです。バックアップ プロキシの構築は、プロキシとして設定するサーバ (物理もしくは仮想マシン) に Arcserve UDP Windows エージェント (もしくは復旧ポイントサーバ) を導入するだけの簡単設定になります。

Top へ戻る

Q15. エージェントレス方式でバックアップ プロキシをバックアップできますか？

いいえ、自分自身のバックアップ プロキシをエージェントレス バックアップでバックアップすることはできません。エージェントレス方式でバックアップするには、ほかのバックアップ プロキシ経由でバックアップします。バックアップ プロキシが 1 台のみの環境の場合は、エージェントレス方式ではバックアップできないため、バックアップ プロキシをエージェントベースでバックアップします。

Top へ戻る

Q16. バックアップできるボリュームサイズに制限はありますか？

はい。Windows エージェント環境では 1 ボリューム 64TB までバックアップ可能です。64TB 以上のボリュームをバックアップする場合は、ボリュームを分割してください。Linux エージェント環境では制限はありません。

なお、仮想環境でエージェントレス方式のバックアップを利用する場合は、各仮想ベンダー様のボリュームサイズ制限を確認してください。

Top へ戻る

Q17. CIFS 共有フォルダ や NFS 共有フォルダのバックアップはできますか？

はい、できます。CIFS 共有フォルダや NFS 共有フォルダのパス（¥¥ホスト名¥共有名など）をバックアップ対象として指定することで、ファイル単位の継続増分バックアップができます。これにより、エージェントをインストールできない NAS やストレージ、USB 接続などの外付け (リムーバブル) ディスクのデータもバックアップできます。また重複排除の機能も利用できます。

Top へ戻る

Q18. Hyper-V 環境のエージェントレス バックアップにはどんな方法がありますか？

Hyper-V 環境のバックアップには二種類のエージェントレス バックアップの方法があります。

・仮想マシンのエージェントレス バックアップ（プロキシ経由）

一般的にエージェントレス バックアップといえば、この方法を指します。バックアップの設定は Arcserve UDP コンソールから行い、各仮想マシンをエージェントレスでバックアップします。この方法では、仮想マシン単位の復旧の

ほか、ファイル単位でもリストアできます。Hyper-V ホストのバックアップには、ホスト サーバにエージェントを導入して行います。

・Hyper-V ホスト丸ごとのバックアップ

Hyper-V ホストにエージェントを導入し、Hyper-V ホストを丸ごとバックアップします。この方法は、Hyper-V ホスト上の仮想マシンも一括でバックアップしますが、復旧の単位は仮想マシン単位になります。ファイル単位のリストアは行えません。バックアップの設定は Arcserve UDP コンソール、または Arcserve UDP エージェントの GUI から行います。

エージェントレス バックアップの他、各仮想マシンにエージェントを導入して物理サーバと同じようにバックアップする方法もサポートしています。

Top へ戻る

Q19. Arcserve UDP で行う通信にセキュアなプロトコルを使えますか？

はい。SSL を使った通信が使用可能です。

Top へ戻る

Q20. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

Arcserve UDP からみると、Nutanix のハイパーコンバージドインフラは透過的な環境であるため、エージェントレス方式も、また各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式もサポートします。

Top へ戻る

Q21. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式をサポートします。

Top へ戻る

Q22. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで AHV (Acropolis Hypervisor) 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップモジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式と、エージェントレス バックアップもサポートします。

Top へ戻る

Q23. Nutanix Files のバックアップはサポートしますか？

はい、サポートします。

共有フォルダのバックアップで Nutanix Files で提供されている CIFS (SMB) 共有と NFS 共有をバックアップできます。また、Nutanix Files のスナップショットと連携して、増分バックアップを高速に行えます。Nutanix Files のバックアップを行う場合、「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。

Top へ戻る

Q24. Proxmox VE 仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、Arcserve UDP 10.x 動作要件の範囲内でサポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。Proxmox VE 仮想マシンのバックアップとベアメタル復旧については、以下のブログ記事もご覧ください。

参考：Arcserve UDP 10 で Proxmox VE 仮想マシンのベアメタル復旧をしてみた！

Top へ戻る

Q25. HPE Morpheus VM Essentials Software 仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、Arcserve UDP 10.x 動作要件の範囲内でサポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。

Top へ戻る

Q26. Citrix Xen Server や Oracle VM を仮想スタンバイ対象の仮想環境としてサポートしていますか？

いいえ、Citrix Xen Server や Oracle VM は、仮想スタンバイの作成先として利用できません。作成先として対応しているのは、Hyper-V、vSphere、Nutanix AHV、AWS、Microsoft Azure、Google Cloud になります。そのほかの仮想環境や物理環境は、仮想スタンバイのソース (バックアップ対象) としてサポートされ、上記ハイパーバイザやクラウドに代替 VM を作成できます。

なお Google Cloud への仮想スタンバイの作成は、Arcserve UDP 10 からの機能になります。

Top へ戻る

Q27. Arcserve UDP に付属する Arcserve Backup ではなにができますか？

Arcserve UDP Advanced Edition に付属する Arcserve Backup では、復旧ポイント（UDP でバックアップしたデータ）をシングルドライブのテープ装置や、ハードディスクに二次バックアップできます。

Arcserve UDP の復旧ポイント以外をバックアップされる場合や、複数ドライブ搭載のテープライブラリ装置 / VTL をご利用の場合には、Premium Edition 以上をご利用ください。

Top へ戻る

Q28. Arcserve UDP のコンポーネントは仮想サーバやクラウド上の仮想マシンに導入できますか？

はい、以下のすべての Arcserve UDP コンポーネントを仮想マシン上でご利用いただけます。

（Arcserve UDP コンソール、復旧ポイント サーバ、Arcserve UDP Agent for Windows、Arcserve UDP Agent for Linux）

サポート対象の仮想環境やクラウドサービスは動作要件をご参照ください。

Top へ戻る

Q29. 仮想スタンバイとは何ですか？

バックアップ データから仮想マシンを作成し、自動リカバリを実施する機能です。復旧済みの仮想マシンを常時準備できるため、本番サーバ障害時には仮想ゲストを起動していただければ、すぐに業務を再開できます。仮想スタンバイは、Windows マシンをサポートします。

Top へ戻る

Q30. アドホック仮想スタンバイとは何ですか？

仮想スタンバイを任意のタイミングで行う機能です。通常の仮想スタンバイは、プランの中でタスクとして選択し、バックアップ/レプリケート処理後に代替 VM を自動作成します。対してアドホック仮想スタンバイは、復旧ポイントがあれば後から実行できる機能になります。アドホック仮想スタンバイが利用できることで、Amazon EC2 や Azure VM、Google Cloud などにおいて、Windows マシンのシステム復旧を容易に行えるようになります。さらに、遠隔地やクラウドに転送した復旧ポイントを使って、必要な時に仮想マシンを作成できるため、日常運用でのディスク利用量やクラウドの運用コストを削減することができます。
通常の仮想スタンバイとの違いは、代替 VM の作成元が復旧ポイントサーバに限定されること、代替 VM 作成時にリカバリ処理 (リストア処理) が発生するため、リストア時間ゼロにはならないこと、などがあります。

Top へ戻る

Q31. インスタント仮想マシン (インスタント VM) とは何ですか？

最短時間でのリカバリを実現するため、バックアップ データを直接参照し、仮想マシンを生成する Arcserve UDP の機能です。バックアップ対象は物理サーバでも仮想マシンでも対応していますが、インスタント仮想マシンの作成先によって、サポートしているバックアップ対象の OS が異なります。

Windows と Linux をサポートする作成先: Hyper-V / vSphere / Arcserve UDP Cloud Hybrid
Linux のみをサポートする作成先: Nutanix AHV / AWS / Microsoft Azure

なお、Arcserve UDP 10 の仮想スタンバイでは、Google Cloud を作成先としてサポートしていますが、インスタント仮想マシンでは未サポートになります。

Top へ戻る

Q32. 仮想スタンバイとインスタント仮想マシン (インスタント VM) の違いは何ですか？

仮想スタンバイは、プランで事前に設定した仮想環境と仮想データを生成するためのハードディスク領域が必要です。物理的に独立しているため、スタンバイ サーバで運用を継続することができます。
インスタント仮想マシンは、本番サーバに障害があったタイミングで任意の仮想マシンを利用して起動できます。バックアップ データを参照して起動するため、仮想マシン用のハードディスクを用意する必要がありません。
なお、Arcserve UDP 10 からアドホック仮想スタンバイ機能が追加され、インスタント仮想マシン機能と同じように、任意のタイミングで仮想スタンバイを作成できます。
作成する仮想マシンのパフォーマンス観点や、仮想環境での継続運用を想定している場合は仮想スタンバイ (もしくはアドホック仮想スタンバイ)、災害時の一時的な業務継続利用やバックアップ データの動作確認にはインスタント仮想マシンのご利用をお勧めします。

Top へ戻る

Q33. 仮想スタンバイやインスタント仮想マシン (インスタント VM) をクラウド上に構築できますか？

はい、AWS (Amazon Web Services) のクラウド仮想マシン (EC2) や Microsoft Azure のクラウド仮想マシンに仮想スタンバイとインスタント VM を構築できます。また Arcserve UDP 10 からは Google Cloud にも仮想スタンバイを作成できるようになりました。(Google Cloud 環境ではインスタント VM に対応しておりません) そのほか、弊社 Arcserve で提供しているクラウドサービス、Arcserve UDP Cloud Hybrid でも仮想スタンバイとインスタント VM を作成できる DRaaS (ディーアールアース) というサービスを提供しています。
このように様々なクラウドへの対応により、お客様がベストと思われるクラウドに代替マシンを構築でき、オンプレミスで障害が発生した際には、クラウド仮想マシン上の仮想スタンバイやインスタント VM ですぐに業務を再開できます。
なお、Arcserve UDP Cloud Hybrid を除き、クラウド環境でのインスタント VM では、Linux のみ代替マシンを作成できます。Windows 環境の代替マシンは仮想スタンバイをご利用ください。

Top へ戻る

Q34. セキュア ブート環境のマシンをバックアップできますか？

はい、Windows / Linux 共にセキュアブート環境に対応しています。

Top へ戻る

Q35. Arcserve UDP の設定をエクスポートできますか？

Arcserve UDP Windows エージェント単体で運用されている場合は、Arcserve UDP の設定画面の中で JSON ファイル形式でのインポート/エクスポートに対応しています。
Arcserve UDP コンソール環境の場合は、ConsoleMigration.exe コマンドでインポート/エクスポートに対応しています。ConsoleMigration.exe の詳細はコチラをご覧ください。

Top へ戻る

Q36. 複数拠点にバックアップ データを転送できますか？

はい、送り元と送り先となる拠点に復旧ポイントサーバをご用意いただくことで、リトライ/再送機能を備えたレプリケート機能で転送できます。複数拠点に転送する場合、Arcserve UDP 9.x までは 1:1:1 方式の順次レプリケート (例: 東京→名古屋→大阪) が必要でしたが、Arcserve UDP 10 では 1:1:1 の順次方式のほか、1:多の転送ができるようになりました。これにより、ある 1 つの拠点の復旧ポイントを、送り元データとして複数の拠点にレプリケート (例: 東京→名古屋/東京→大阪) することや、一度に複数の拠点にレプリケートができるようになりました。

Top へ戻る

Q37. 古い OS を利用していますが、アシュアード セキュリティ – マルウェア スキャンを利用できますか？

アシュアード セキュリティ- マルウェア スキャンは、プロキシという代理サーバをたて、Microsoft Defender の機能を使ってマルウェア スキャンを実施します。このため、プロキシを導入する Windows Server が 日本マイクロソフト株式会社のサポート対象バージョンであれば 、古い OS のバックアップ データでも最新の定義ファイルでスキャンできます。

Top へ戻る

Q38. Microsoft Defender を無効にしている場合でも、アシュアード セキュリティ- マルウェア スキャンを利用できますか？

アシュアード セキュリティ – マルウェア スキャンはバックアップ対象サーバではなく、プロキシを導入する Windows Server で実施するため、該当プロキシで Microsoft Defender を有効にできれば利用できます。

Top へ戻る

Q39. タスク 1 で Microsoft 365 のバックアップが設定できないのですが、非サポートになったのでしょうか？

いいえ、Arcserve UDP 10 でも Microsoft 365 のバックアップをサポートしています。ただ Arcserve UDP 9.x からライセンス チェックが行われるようになり、Arcserve UDP コンソールに Microsoft 365 用のサブスクリプション ライセンスが登録されている場合のみ、プランのタスク 1 に Microsoft 365 用のバックアップ (Exchange Online や OneDrive など) が表示されます。

トライアルで Microsoft 365 のバックアップを試される場合は、Arcserve UDP 10 トライアル モジュールのダウンロード時にキーを発行していますので、そのキーを Arcserve UDP コンソールに登録してください。

Top へ戻る